

「本の雑誌」編集発行人

浜本 茂
はまもと しげる



増剛がかかるたびに「タイトルの勝利ですね」とい
るんなりに言われて、いささか面食らった。読者の関
心を惹く巧い書名だといつのである。本をつくるにあ

術」だったが、「七十歳から」としたのは読者が限定
たつては、造本、判型から、本文の組み方、カバーデ
ザイン、帯のコピーまで、それぞれ悩むところが満載
なのだ。いちばん頭を抱えるのは、なんとこれも
書名。教養系の新書などは発行きの八割はタイトルで
決まる。とまで言われているほど。売れるか売れないか、
書名が占める要素は大きい。

「書名の世界は奥が深い！」

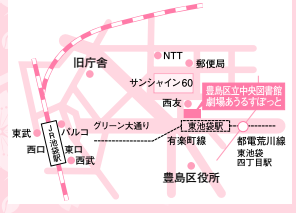


と しょ か ん こ う し ん
書 館 通 信

トピックス

- 巻頭言 「本の雑誌」編集発行人 浜本茂……………1ページ
- 古い本、新しい話 尾崎真理子……………1ページ
- 図書館と私 巣鴨図書館奉仕員(司書) 滑川悦子……………2ページ
- 生涯の一冊 図書館経営協議会委員 戸田典子……………2ページ
- この本カフェ……………2ページ
- 絵本で会いましょう 風木一人……………3ページ
- 安全・安心庁舎……………3ページ
- 図書館イベント情報・図書館開館情報……………4ページ

第40号
季刊(春)
2016



発行 ●豊島区立中央図書館
東京都豊島区東池袋四一五二
ライズアリーナビル四階・五階 〒170-0844
電話 ●03-3983-7861
FAX ●03-3983-9904
ホームページ ●http://www.library.toshima.tokyo.jp/
発行日 ●平成28年4月

新航路【38】

本をじっくり読みましょう!

よく見れば薺花咲く垣根かな 芭蕉
気忙しい日常生活を送っていると、道端の野草が花を咲かせていても気がつかないで過ごしてしまいます。新聞を流し読みし、スマホの画面の硬軟織り交ぜたすぐ消えてなくなる情報に忙しく目を走らせる、そんな毎日を送っていると、それで本当に何が残るのだろうかとふと考えたりします。
中学生や高校生の頃に集中して読んだ文学作品がいちばん心に残っています。中央公論社発行B6版青い表紙の「日本の文学」で、漱石の「三四郎」を初めとして『それから』や『こころ』『道草』、島崎藤村の『破戒』などを読むときは

2、3日集中して読んでいました。『明暗』や『夜明け前』は少しボリュームがあって読み通すことができずでしたが…。
青少年の生活に、本を読む習慣も、時間も、量も、学年が進むにしたがって小さくなっていく傾向が実態調査の結果に表れています。平成28年度からスタートする「豊島区子ども読書活動推進計画(第三次)」は、中学生や高校生の読書活動を活発にすることを重点目標の一つにしました。
みなさん、少しスマホや携帯を脇において、垣根のなすなの花に目をやるくらい生活にゆとりをもって、本をじっくり読んでみませんか!

古い本、新しい話 ⑦

「春を恨んだりはいしない」

尾崎 真理子

二〇一一年四月八日から三日間、仙台から若手県境近くまで、沿岸を車で北上した。池澤夏樹氏に被災地のルポを書いてもらうため、カメラマンと同行したのだ。
津波になぎ倒された瓦礫がどこまでも散乱していた。放心したように、あるいは古代から未来を見渡すように海岸で立ちつくしていた作家……。その写真と文章を翌週の新間に掲載した。これを機に被災地を訪れ続けた池澤氏は、やがて大震災をめぐる論考をまとめ、その本『春を恨んだりはいしない』はこのほど中公文庫に入った。

読み返しながら、取材の現場が胸の痛みと共によみがえる。仙台市荒浜で見つけた、砂まみれの絵日記に描かれていた「あらはままだま」。手書きの壁新聞を避難所に届けた石巻日田新聞社を訪ねて聞いた当夜の極限状況。津波の悲惨が最も色濃く残っていた女川、町の入り口にあった仮土葬場の小さな標示。
〈あの時に感じたことが本物である。風化した後の今の印象でものを考えてはならない〉
〈背景には死者たちがいる。そこに何度でも立ち返らなければならぬと思つた〉

〈みんながいくら悲しんでも緑は萌え桜は咲いた〉
その通り、芽吹き季節に何の罪もないけれど、桜の美しさはあの年から違つて見える。
原子力発電の絶対的安全な、永遠の成長を前提とする消費社会に対して、『楽しい週末』(一九九三年)、『すばらしい新世界』(二〇〇〇年)等の著作でかねてから疑義を呈していた池澤氏。だが、東日本大震災後はいっそう文学へ専心する。みずから古事記を現代語訳し、若い作家らに呼びかけて『日本文学全集』(三十巻)河出書房新社)の責任編集にとりかかった。どんな災禍に遭おうとも失せなかつた「奥の細道」「遠野物語」、宮沢賢治……。ことばの不滅を東北各地で実感したからではなかつたか、と察する。そして、作家とは時代の命運をこゝまで一身に引き受けるものか。改めて畏怖している。

(読売新聞文化部)

一九六〇年、北海道函館市生まれ。中央大学法学部卒業後、本の雑誌社に入社。
長い下積み生活のあと、二〇〇一年一月に目黒考二のあとを受けて、本の雑誌二代目発行人に就任。
二〇一一年一月から椎名誠に変わって編集長となる。

生涯の一冊

(39)



■『第二の性』決定版 I 事実と神話
シモーヌ・ド・ボーヴォワール／著
井上たか子・木村信子／監訳
新潮社 1997年

■『第二の性』決定版 II 体験
シモーヌ・ド・ボーヴォワール／著
中嶋公子・加藤康子／監訳
新潮社 1997年

豊島区図書館経営協議会委員

戸田典子

日本語教師。国立国会図書館で主に調査業務に携わる。定年退職後、職業訓練を経て現職。豊島区駒込生まれ、豊島区在住。



この本に出会ったのは50年前、高校生のときだった。当時のサラリーマン家庭としては珍しく、私の母は仕事をしていた。子どもの頃から寂しさを感じていた私は、将来仕事を絶対にしたくない、子どもが学校から帰ってきたらいつも家で迎えてやれる母親になろう、と決意していた。一方私は熱心に勉強する優等生で、大学進学を希望していた。4年制大学への女性の進学率が5%程度だった時代のことである。

中学時代の同級生との手紙のやりとりの中で、このような気持ちを書き送ったところ、予想もしない返信が来た。

シモーヌ・ド・ボーヴォワール『第二の性』

「あなたは仕事をしないで家にいる母親になると言う。それなら、なぜそんなに勉強しているの? なんのために?」「『第二の性』くらい読んでみたら!」

その通りだ、私のしていることはおかしい、と鏡を覗いた私は早速、生島遼一訳『第二の性』(新潮文庫 全5巻)を読んだ。そして180度転向したのである。一生仕事をしていたこと。

『第二の性』I 事実と神話(原著の構成に忠実な新訳(1997年。新潮社)による)は、人類学などの知見を元に、女性らしさというものは作られた「神話」であることを説明。「II 体験」は、「神話」にとら

われた女性の苦しみの一生を文学作品などを引用して活写。IIの「第14章自立した女」(生島訳「III第5章自由な女」)で、女性の経済的な自立の重要性を説く。

大学卒業を控えて、男子学生には段ボール一杯の会社案内が届いたが、私には一冊も来なかった。女性には「若年定年制」「結婚退職制」を課す企業も多く、途方に暮れていたとき、新聞に「女性初、国立国会図書館職員、公務員宿舎に入居」という記事が。「ここしかない!」日本の本なら何でもある図書館、という程度の知識のまま、国立国会図書館に就職した。女性が働きやすそうだと、という理由で。それから35年、子どもたちが寂しさを感じているかどうか、考えられる暇もなく定年まで働いた。



図書館と私 27

豊島図書館
図書館奉仕員(司書)
滑川 悦子

腕 じ ま ん

鞆が重い。軽いときで2キロ、重いときで4.5キロある。理由は児童書。私は通勤の約二時間を、児童書を読むのにあてているので、鞆が重くなってしまったのだ。

ある日、「ロボットの本はないの?」と幼稚園くらいの男の子に尋ねられた。詳しく話を聞くと、図鑑は読んだので違うものが読みたいとのこと。絵本を何冊か一緒に見ていると、お母さんが現れた。お母さんの話だと、絵本でもタイトルに「ロボット」が入っているものは一通り読んだらしい。じゃあ、内容にロボットが入っているお話を。自分の記憶をたどって、内容に「ロボット」の入っているお話を何冊か手渡すことができた。その子は、『はなとひみつ』という絵本を借りて行った。子どもに本を手渡すときは内容を知っていないと、うまく伝わらない。伝え方ひとつで興味をもってもらえるならば、もっと読まなければ。そんなことを想いながら、重い鞆を持ち片手で本を読んでいる。最近では、たくさんの量を持ち帰ることができるようになった。

読書量も腕力も以前に比べるとついたというところだろう。少し前にひよんなことで父と口論になり、決着を腕相撲でつけることになった。勝負を始めるのと驚くことに、すぐに勝利を確信した。手を抜いてくれているかと思っただけ、勝負事で手を抜く父ではない。還暦を迎えたばかりの父はよほど焦ったのだろう。腕が潮につきそうになったとき、さっと左手も出してきたのだ。

勝負に圧勝した私は嬉しくなり、職場の忘年会で自慢をした。すると、お酒が入っていたこともあり、その場で駒込図書館(※)腕相撲大会が始まった。同僚や先輩をバツバツと倒した私は、豊島区立図書館一強いかもしいかと思った。これから何か決めるときは腕相撲を提案しよう。そう考えた時、同僚のIさんが現れた。Iさんは強かった。勝負は一瞬で、左手を出す間もなかった。

私はいま打倒Iさんを掲げ、日々児童書を鞆に詰めている。読書量も腕力もつけて、子どもにたくさんの絵本を手渡せるように邁進していきたい。※3月まで駒込図書館に配属でした。

Café KONOHON

この本カフェ

6
杯目

謎・ミステリー

今回のテーマ

書名『楽園のカンヴァス』

原田マハ／著 新潮文庫 2014年

ルソーの名画「夢」。じつは、もう一枚この絵が存在していた? 本書は、その真贋鑑定にまつわるミステリー。

スイスにあるコレクターの大邸宅で、2人の鑑定人が真贋の判定を賭け対決する。名画に高額な値を付ける際の駆け引きや美術館の舞台裏、そこで働くキュレーターの内情等々。これら迫力ある描写は、森美術館設立に携わった著者ならではの。作品への「情熱」と「愛情」が、スリリングでミステリアスな展開をより趣深いものに。読後、あらためてじっくりとルソーの絵を見たくなる。

【古川 依子(ふるかわ よりこ)】



書名『ご近所富士山の「謎」 富士塚ご利益散策ガイド』

有坂蓉子／著 講談社+α新書 2008年

富士は「美と畏れ」という2つのワードを兼ね備えたスペシャルな存在だと、著者は語る。ご近所にある、富士塚には、庶民的で親しみやすいオーラが漂う。お散歩がてら、お参りがてらに出掛けられる気軽さも良い。春はもうすぐ。ちょっと豊島区内の富士塚へ出かけてみませんか。

【清水 悦子(しみず えつこ)】



書名『秘密の花園』

F・H・バーネット／作 猪熊葉子／訳 福音館文庫 2003年

第一章「みんないなくなつた」から始まる物語の主人公一人目は、インド生まれの醜くひねくれた我儘な女の子。二人目は、イギリスヨークシャー育ちの自然児の男の子。三人目は、誰からも愛される事無くひ弱に育ってしまった癩癩持ちの男の子。この三人が庭を介して繰り広げるひと夏の成長の過程は、現代の子供達が様々な問題にぶつかって悩んだとき、扉の向こうに出るための手助けになるかも知れません。黒い露の様な目をしたコマドリに誘われて、さあ、あなたもその庭へ行きましょう。

【小島 由紀子(こじま ゆきこ)】



寄稿者はしほまコミュニティ大学の学習者の内、登録して学んでいる「マナビト生」です。人類学者 佐藤社広氏の協力のもと、毎回のテーマに合わせて文学、児童書、書評や科学の分野のお薦め本を紹介しています。

絵本で会いましょう

(全4回) 最終回

大人向けの絵本とは？

今回は大人におすすめの絵本を紹介いたします。でも、その前に、大人と子どもとの違いって何なのでしょう？

ほくは経験量だと思っています。いろいろな違いがあるけれど、そのほくとは経験量の違いから生まれているような気がするのです。すると大人向けの絵本とは、経験が豊富であるほく味わえる絵本、というところになりますね。

『だくちる だくちる』

…はじめてのうた…

長い時間を感じる、気が遠くなるほどの長い時間を感じるのも、まさに、5年生きた人より50年生きた人のほくが得意とするところでしょう。この絵本の舞台は太古の地球です。人類が生まれるよりはるか昔、ひとりほくちで生きていたイグアノドンが、初めての友達と出会います。

風木 一人 (かぜき かずひと)

東京都生まれ。絵本作家・翻訳家。創作に『うしのもーさん』、『めいぐるみおとまりかい』、『ふしぎなトラのトランク』、『ながいながいへびのはなし』など、翻訳に『くぼんくまさん つきへいく』、『おおきな木のおはなし』などがある。池袋コミュニティ・カレッジで絵本講座開講中。
http://www.geocities.jp/kzk227/



『だくちる だくちる …はじめてのうた…』
原案 V・ベレストフ
文 阪田寛夫 / 絵 長新太
福音館書店

「だくちる」という奇妙なタイトルはその鳴き声からとっているのです。

表紙でおわかりでしょうか、画家は主人公のイグアノドンに目も鼻も描いていません。のっぺらぼうです。それなのにイグアノドンの感情は、寂しさも嬉しさも、痛いほどに伝わってきます。寂しいときは足の先まで冷たくなり、嬉しいときははしゃぎ足で燃え上がるのです。何徳年の大昔、地球上に初めて生まれた友情と歌。それが、今ここで生きていく自分の毎日と、悲喜もももも、どこかで遠くつながっていることを想像するには、いったいだれほどの人生経験が必要なのでしょう。

『おおきな木』

これは有名な絵本です。原題は「The Giving Tree」、一本のりんごの木が、一人の男の子のち老人に与え続ける物語です。

子どもたちは一緒に遊び、木陰で休み、りんごを食べて、木も男の子も幸せでした。しかし男の子は成長します。無邪気な時代は終わり、世界は広がり、りんごの木に寄りつかなくなり、そのくせ何か困ったときにだけ、たのみごとに来るのです。

お金がほしい、家がほしい、舟がほしい。そのたのび木は、りんごを、枝を、幹を与えます。幹を与えるというところは、木は切り株になってしまっていくというところが……。

誰か見たって男は身勝手です。ひどい。しかし心は誰の心にもあるもので、男と同様の所業を働いたことがないと、自信を持って言える人がどれだけの人がいるでしょう。

絵本は木の立場から書かれています。男の立場から見た物語もあつたはずですが、



『おおきな木』
作 シェル・シルヴァスタイン
訳 村上春樹
あすなろ書房

は相当な経験を積みなければなりません。現行版は村上春樹訳ですが、以前はほんたきんいちろう訳が出ていました。図書館には両方所蔵されていることも多いので読み比べてみるのもおすすめです。

原作は百年ほど前の英語の詩で、亡くなった人から残された人へのメッセージの形をとっています。「死はなんでもないものです。私はただとなりの部屋にそとと移っただけ。」経験を重ねても死そのものがわかることはないでしょう。しかし死とのつきあひ方のようなものはわかってきます。たぐさんの痛みと哀しみを通して。

『たのびならのあとで』

夏葉社は島田潤一郎さんという方が一人でやっている出版社です。島田さんは個人的な経験からこの詩と出会い、なんとしても本にしたいと思ひ、そのために夏葉社を立ち上げたそうです。実際には今もマイペースでよい本を出し続けていますが、当初はこの本さえ出せたらやめてもいいと思っていたとか。

その志に打たれます。伝えたい想いがある。だからそれを全力で形にする。出版とはまさにこうい

う事業ではなかつたか。うか。



『たのびならのあとで』
詩 ヘンリー・スコット・ホランド
絵 高橋和枝
夏葉社

図書館通信での連載はこれで最終回となりますが、絵本との出会いはこれからも続きます。ほくのホームページ「絵本で会いましょう」にもぜひ遊びに来て下さい。

先端技術を駆使し、あらゆる災害に対応する 安全・安心庁舎

このコーナーは、**新庁舎の特徴**として掲げているテーマに関連した図書資料を紹介する連載です。今回は**防災センター機能**を紹介します。庁舎の5階の**防災対策センター**は、平時は、防災対策の強化や防災啓発の拠点として活用しています。けれども、**万が一**の災害発生時には即座に「**災害対策本部**」として活躍する「司令塔」となります。そのために、庁舎本体が**地震に強く**、東日本大震災級の大地震にも十分耐える設計で、**3日間に対応できる非常用発電設備**や耐震性の高いエレベータが設置されています。そして、**災害情報の収集・管理・配信**を連携する**最新鋭の防災システム**を導入しています。いざという時に**区民の安全・安心を守るために迅速に対応**できる施設なのです。

イラストと本の紹介 / 中央図書館一般書担当



『災害対処・医療救護がけつブック』
—消防組織、自衛隊、警察組織、医療の連携—
小井土雄一、箱崎幸也、林宗博、横山正巳 / 編集
診断と治療社 発行：2015年3月

実際に救助に向かう人たちのための本です。様々な自然災害の対処方法が載っています。専門的な事項もありますが、実例も載っているので参考になるかもしれません。



『東京防災』

東京都総務局総合防災部防災管理課 / 編集・発行
発行：2015年9月

『東京防災』は、全戸配布されたものですが、内容が具体的でわかりやすいと評判になりました。他の地域の方からも手に入れたいという声があり、市販もされている1冊です。

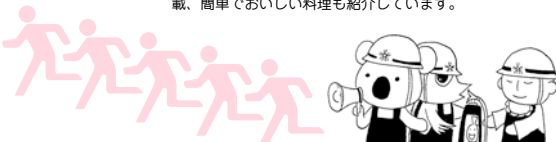
付属のオリジナル防災マップは2015年4月作成のものなので、5月7日に移転した豊島区役所の情報は、旧庁舎所在地のままになっていますのでご注意ください。現在の住所は豊島区南池袋2-45-1 ☎03-3981-1111 (代表) です。



『台所防災術 一がんばらなくても大丈夫 被災からふつうの暮らしにもどるまで』

坂本廣子 坂本佳奈 / 著
農山漁村文化協会 初版発行：2012年5月

家にある食材をつかって非常食を作るという視点にたつて書かれた本です。阪神・淡路大震災で被災した料理研究家のアイデア満載、簡単でおいしい料理も紹介しています。



図書館イベント情報

★…児童・あかちゃんむけ ●…大人向け

毎週、本の読み聞かせなどのイベントを行っています。遊びに来てくださいね。

各図書館の
連絡先

- 中央図書館 3983-7861 □池袋図書館 3985-7981
- 駒込図書館 3940-5751 □目白図書館 3950-7121
- 巣鴨図書館 3910-3608 □千早図書館 3955-8361
- 上池袋図書館 3940-1779 □雑司が谷図書貸出コーナー 3590-1335

主催/会場	おはなし会開催日		スペシャルイベント		
	幼児・小学生	あかちゃん	4月	5月	6月
中央図書館 児童コーナー (※印は会議室)	日曜日 午後2時	最終日曜日 午前11時 (6月は19日)	★17日・子ども読書の日記念スペシャル 絵本の読み聞かせ 午前11時～午後3時 ●23日・講演会「ミステリー批評55年泡坂妻夫と 雑誌『幻影城』」(要申込) 午後2時	★1日・おはなしこうさく会 午後2時 ★29日・ボランティアによるおはなし会 (池袋親子読書会) 午後2時	★5日・おはなしこうさく会 午後2時
駒込図書館	土曜日 午後3時	第1水曜日 午前11時	★23日・子ども読書の日スペシャル&リニューアル オープニングイベント、「歌で楽しむ絵本」 午前11時30分、午後1時30分	★14日・生物多様性プロジェクトエコツリング体験 午後2時	★19日・かがく工作会 午後2時
巣鴨図書館 地下会議室	水曜日 午後3時30分 (6/8は休み)	第3火曜日 午前11時	★20日・子ども読書の日スペシャル 絵本・紙芝居の読み聞かせ、手遊び など 午後3時30分	★4日・ほんのじかんこうさくかい 午後3時30分	★22日・ほんのじかんえいがかい 午後3時30分
上池袋図書館 おはなしのへや (※印は地下ホール)	水曜日 午後3時	最終水曜日 午前11時※	★30日・子ども読書の日スペシャル さくらんぼおはなし会「歌で楽しむ絵本」 午前11時30分、午後1時30分※	★21日・生物多様性プロジェクトエコツリング体験 午後2時※	★23日・ぬいぐるみお泊り会 ※
池袋図書館 ワークルーム	土曜日 午後2時30分 (5/21はお休み)	第1水曜日 午前11時	★23日・子ども読書の日スペシャル おはなしたんぼ 午後2時30分	★28日・たんぼぼえいがかい 午後2時30分 「ゴマちゃんの交通安全」(15分)	★25日・たんぼぼえいがかい 午後2時30分 「長靴をはいた猫」(43分)
目白図書館 地下区民集会所	水曜日 午後3時 (5/11は休み)	第1水曜日 午後2時	★27日・子ども読書の日スペシャル 絵本の読み聞かせほか 午後3時		★29日・めじろシアター 午後3時
千早図書館 視聴覚室	水曜日 午後3時30分	水曜日 午前10時30分	★20日・子ども読書の日スペシャル 絵本・紙芝居の読み聞かせ 午後3時30分	★11日・ほんとか工作会 「じたばたストーリー」を作ろう 午後3時30	

日程・会場等が変更になることがあります。事前にお問合わせください。

「子ども読書の日」記念 スペシャルおはなし会のご案内

4月23日は「子ども読書の日」です。各図書館では、この日を記念して、子どもたちが図書館に親しみ本を読む楽しさにふれられるように、スペシャルおはなし会を行います。
詳細は、各図書館へお問い合わせください。



★「子ども読書の日」とは★

「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき、「国民の間に広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるため(同法第10条)」に4月23日が子ども読書の日に定められました。

第5回 泡坂妻夫展 開催中

豊島区に長くお住まいになり、直木賞作家であった小説家 泡坂妻夫さん(1933年5月9日-2009年2月3日)は、東京・神田で「松葉屋」の屋号を持つ紋章上絵師の家に生まれ、会社勤めを経て家業を継ぎ絵師となりました。また奇術愛好家兼奇術師としても有名でした。泡坂妻夫展は今年5回目になります。



会場 中央図書館5階

期間 平成28年3月26日(土) から 5月26日(木)まで

特別講演会

「ミステリー批評55年 泡坂妻夫と雑誌『幻影城』」

泡坂妻夫がデビューした幻影城新人賞の選考委員をされ、昨年ご自身のミステリー評論の総まとめである「謎と恐怖の楽園で ミステリー批評55年」を刊行された権田萬治氏にお話をさせていただきます。

- 講師 権田 萬治 氏(評論家、ミステリー文学資料館館長)
- 司会 野地 嘉文 氏
- 日時 平成28年4月23日(土曜日) 午後2時～4時
- 会場 あうるすぽっと3階会議室B
(東池袋4-5-2 ライズアリーナビル3階)



中央図書館と同じ建物

定員 100名(先着順) 参加費 無料

申込方法

- 電話：03-3983-7861 ●FAX：03-3983-9904
- メール：A0027900@city.toshima.lg.jp
- 来館申込：中央図書館5階の事務室までお越しください。
(午前10時から午後5時まで)

問い合わせ 企画調整グループ

「謎と恐怖の楽園で ミステリー批評55年」
光文社/2015年10月



編集後記
今回の巻頭言は、中央図書館主催の講演会で講師をしていただいた津野海太郎さんの著書「百歳までの読書術」を作っている方のお話はとても魅力的ですね。本に限らず、何かを今号で私が編集を担当するのは最後になります。お付き合いいただきありがとうございます。(社)

豊島区立図書館の開館日及び開館時間

館名	開館日及び時間	休館日	特別整理のための休館
中央図書館	平日 午前10時～午後10時	第2月曜日 第4金曜日 12月29日～1月4日	6月20日(月)～6月27日(月)
	土日祝日 午前10時～午後6時		
駒込図書館 (4月23日開館)	平日 午前9時～午後8時	第1火曜日 第4金曜日 12月29日～1月4日	なし (休館期間中に実施)
	土日祝日 午前9時～午後6時 ※平日は、午前8時から資料の返却と、予約資料の受取ができます。		
上池袋図書館	平日 午前9時～午後8時	第1火曜日 第4金曜日 12月29日～1月4日	6月13日(月)～6月14日(火)
	土日祝日 午前9時～午後6時		
巣鴨図書館	平日 午前9時～午後7時	第1月曜日 第4金曜日 12月29日～1月4日	6月8日(水)～6月11日(土)
池袋図書館	平日 午前9時～午後7時	毎週月曜日 第4金曜日 12月29日～1月4日	5月18日(水)～5月23日(月)
	土日祝日 午前9時～午後6時		5月11日(水)～5月14日(土)
千早図書館	平日 午前9時～午後7時	毎週火曜日 第4金曜日 12月29日～1月4日	6月2日(木)～6月5日(日)
	土日祝日 午前9時～午後6時		
雑司が谷図書貸出コーナー	平日 午前10時～午後7時 土日祝日 午前10時～午後5時	第2月曜日 最終月曜日 第4金曜日 12月29日～1月4日	6月20日(月)～6月27日(月)

※都合により変更になる場合があります。

駒込図書館・上池袋図書館・巣鴨図書館の開館日・開館時間が拡大します

- 駒込図書館は、老朽化に伴う大規模改修工事のため休館していましたが、4月23日(土)より開館いたします。
- 駒込図書館・上池袋図書館は、4月より指定管理者(株)図書館流通センター)による管理運営に変わり、新たにWi-Fi環境整備、電子図書館サービスを開始いたします。

千早図書館友の会主催 「千早進歩自由夢月例会」

◆(5月例会) 講演会「私が朗読する目的」

- 日時 5月21日(土)
午後2時から午後4時(開場：1時30分)
- 講師 小林 大輔 氏(元フジテレビアナウンサー)
- 講演内容 朗読…「高瀬舟」(森鷗外作)、
「おおかさんの木」(大川悦生作) 他
お話し…「なぜ私は朗読をはじめたか」 他
- 定員 50名(当日先着順)～小学生以上～

◆(6月例会) 講演会「夏目漱石の人生と作品」

- 日程 6月25日(土)
午後2時から午後4時(開場：1時30分)
- 講師 立堀 隆三 氏(楽学塾塾長)
- 講演内容 漱石没後100年を記念し、漱石の人生と作品について解説。「かさね朗読会」による朗読もあります。
- 定員 50名(当日先着順)

会場 千早図書館 2階 視聴覚室

問い合わせ 千早図書館友の会
千早図書館 ☎3955-8361